

狩猟鳥獣のモニタリングに係る今後の対応方針（案）

種名		追加的モニタリングの 必要性（優先度）		本検討会における調査検討を踏まえた 追加的モニタリングの考え方	今後の対応方針
		【H24年度評価】	【平成25・26年度 調査検討結果】		
鳥類	ウズラ	高	（高）	モニタリングのための調査手法は概ね確立されたが、モニタリングの前提となる全国的な生息（分布）情報が不足している。 （※H24.9.15付けで狩猟鳥獣の指定を解除）	○都道府県を始めとする関係機関・団体へ広く調査手法の情報提供を行う。 ○これまで確実な生息情報が得られている場所（北海道及び九州）で引き続きモニタリング調査を行う。また、全国的・最新の生息情報の収集に努める。
	ヤマドリ （コジロヤマドリを除く）	中	中	捕獲位置情報の活用及び既存の出合数調査の調査手法及び活用方法の見直しにより、必要なモニタリングが可能と考えられる。	○既存の出合数調査に係る調査データについて、適切な分析手法等を検討する。
	ヤマシギ （アマミヤマシギ除く）	高	高	引き続き、生息状況のモニタリング手法確立へ向けた調査検討が必要。	○特に非繁殖期のモニタリング手法について調査検討を継続する。 ○繁殖期の調査手法については、調査検討の前提となるヤマシギの生態等の基礎的知見が不足しているため、これらの知見の収集に努める。
	バン	中	低	捕獲位置情報の活用及びモニタリング1000等の既存調査結果の活用により、必要なモニタリングが可能と考えられる。	○更なる調査検討の優先度は低いと考えられるため、これまでの調査検討結果を踏まえたモニタリング情報の把握を着実にを行う。
	タシギ				
獣類	キツネ	中	低	狩猟者の捕獲意欲と出猟そのものが減少していること、有害鳥獣捕獲数は増加傾向にあることから、生息状況の急激な減少は考えにくい。このため、追加的モニタリングの必要性は低いと考えられる。	○更なる調査検討の優先度は低いと考えられるため、これまでの調査検討結果を踏まえたモニタリング情報の把握を着実にを行う。 ※イタチ（オス）、シマリスについては、野外では類似種との区別が困難であり、誤った捕獲報告が行われている可能性があるため、捕獲報告の精度を高める必要がある。
	アナグマ	中			
	イタチ（オス）	中			
	テン	中		狩猟者の捕獲意欲と出猟そのものが減少しており、捕獲数減少が生息状況の悪化によるものかは不明。今後、捕獲位置情報や既存調査結果等の活用により必要なモニタリングが可能と考えられる。	
	シマリス	中	中	本来の生息地である北海道では狩猟禁止措置がとられており、資源管理上の追加的モニタリングの優先度は低い。	○既存文献調査により、ノウサギの基本的な生態や既存の調査手法等に係る知見を収集し、都道府県等に対して適切なモニタリング手法の情報提供を行う。 ○必要に応じて、環境省モニタリングサイト1000の調査結果等を活用し、地域別での動向把握等、詳細分析を行う。
	ユキウサギ・ノウサギ	中		上記の種と比べると、狩猟対象としての魅力が最も大きい。捕獲意欲や出猟状況の減少が著しく、生息状況の悪化も示唆される。よって、更なる調査検討が必要。	